

🏠 市場価格

ドル建て ドル/toz

Platinum	Price	Date
Open	914.50	2023/7/10
High	980.34	2023/7/14
Low	907.56	2023/7/10
Close	975.50	2023/7/14

円建て 円/グラム

Platinum	Price	Date
Open	4179.00	2023/7/10
High	4369.00	2023/7/14
Low	4155.00	2023/7/10
Close	4350.00	2023/7/14

ドル建て ドル/toz

Palladium	Price	Date
Open	1249.00	2023/7/10
High	1305.00	2023/7/13
Low	1191.00	2023/7/10
Close	1271.00	2023/7/14

円建て 円/グラム

Palladium	Price	Date
Open	5714.00	2023/7/10
High	5821.00	2023/7/13
Low	5469.00	2023/7/10
Close	5688.00	2023/7/14

📄 ニュースエクスプレス

プラチナの知られざる、再生可能燃料生産関連の需要が今年の工業需要の文火

プラチナはロジウムとともにグラスファイバーの製造加工に使われている。そしてそのグラスファイバーは風力発電に使われるため、2023年のガラス生産能力拡大を懸念点になると期待されている。プラチナの需要はここによって31トン増えるため、経済成長の促進しが留まり従来の工業需要が伸びない中で、工業全体のプラチナ需要は、前年比で6%増の71.5トンになる予測。

プラチナはここ2週間、 900ドル/オンス ~ 920ドル/オンスの狭いレンジで取引されているが、売られすぎの気配があるため、一時的に弱気相場のショートカバーラリーを誘発する可能性がある。

https://www.heraeus.com/media/media/hpm/doc_hpm/precious_metal_update/en_6/Appraisal_20230710.pdf#m5dytrtdp-12x0cDUS4Se8BkY2580v0oHEW2oJfBUt1ETB9ixiUM

ジョンソン・マッセイ、中国の水素発展に投資で合意

持続可能技術の世界的大手、ジョンソン・マッセイ (JM) は、本日、中国における水素経済の発展を支える目的で、上海の Jiading District in Shanghai と投資に合意した。

実ソングで締結された合意によると、両社は、固体高分子形燃料電池と固体高分子型水電解装置に使われる新たな触媒層付き電解質膜 (CCM)生産設備を建設する計画。

当面は 5GW を目指す新しい設備は、上海の高定区にある水素産業に特化した2万2000平方メートルのエリアに建設され、2025年の完成予定。その後の需要に応じて拡張も可能となっている。

<https://www.primewire.com/news-releases/johnson-matthey-signs-agreement-for-hydrogen-investment-in-china-301875327.html>

トヨタ、水素事業へ本格取り組み 燃料電池外販でコスト削減狙う

トヨタ自動車は11日、脱炭素へ電気自動車 (EV) と並んで力を入れる水素事業の説明会を開いた。中嶋伸樹社長は燃料電池 (FC) システムの外販や水素を作る取り組みへの意欲などを語り、水素消費量を爆発的に拡大させる構想を示した。課題のコスト低減につなげる。「トヨタは水素展開事業者になる」と本意を示した。

FCは水素で起こした電気で車を走らせるシステムで、二酸化炭素 (CO₂) を出さない。EVシステムに対してスペースを取らず、積載量が鍵となつたトラックや小型商用車と相性が良い。トヨタのFCは耐久性や安定性が強みで、市場拡大が見込まれる欧州や中国からの引き合いが強い。

中嶋氏は「安くするには量が必要だ。量を出せるところでしっかりと台数を稼いでコストを下げ、日本に持ち込む」と語った。2030年には年間10万台規模の発注が想定され、20万台以上への上積みも視野に入る。

トヨタはモーターで走る燃料電池車と並行し、既存のエンジン技術や人材を生かせる水素エンジン車の開発も続ける。

<https://www.ycaiglobal.com/news/20230629-03-shanghai-to-develop-platinum-metal-industry-in-lingang>

トヨタ、12月にケンタッキー州で水素燃料電池を製造

7月11日付の米国の複数メディア報道によると、トヨタは2023年12月からケンタッキー州ジョージタウン(Georgetown)工場の専用ラインで水素燃料電池ドライブトレインの生産を開始するという。

ジョージタウン工場の専用生産ラインでは、大型商用トラック用の統合型デュアル燃料電池モジュールが生産される予定。このモジュールは、燃料電池車 (FCV)「ミライ (Mirai)」に使用されている技術をベースにしている。

デュアル燃料電池モジュールの重量は約1,400ポンド(約640kg)。「ミライ」に搭載されているシステムが128kwを出力する一方、今回生産される燃料電池モジュールは最大160kwの連続出力が可能だという。

燃料電池キットには、高電圧バッテリー、電気モーター、トランスミッション、水素貯蔵アセンブリが含まれる。8万ポンド(約36トン)の荷物を最大300マイル(約480km)まで運搬できるクラス8大型トラックを生産する 완성車メーカーに納入する予定。

トヨタは既に、ロサンゼルス港で2022年まで稼働していたケンワース (Kenworth)のトラックファクトリーでの技術を実証している。

トコタは2026年から、必要なセルを減らすことなどで燃料スタックのコストを半減する改良型システムを商品化する予定。

トヨタの新たな燃料電池システムは、航続距離を最大20%のばし、耐久性をディーゼルエンジンの2倍以上に向上させるという。また、大型トラックから乗用車まで様々なタイプの車両に適合するように拡張できる。

<https://www.miningweekly.com/article/hopes-rise-for-platinum-palladium-use-in-batteries-as-commercialisation-takes-steps-up-2023-06-21>

Translated by Kazuo OSANA

📣 WPIC直近の活動

プラチナ豆知識、プラチナ展望、プラチナ投資のエッセンス、プラチナ四半期レポートをご愛読いただく皆様へ朗報です。2023年4月以降の日本語資料も全てWPICの公式ホームページでご閲覧・ダウンロードしていただくことは可能となりました。関連トピックスのページに **DOWNLOAD ARTICLE/PRESENTATION IN FULL: SELECT LANGUAGE** のメニューバーをクリックし、「日本語」を選んでいただければ、日本語版の資料が表示されるようになっていきます。詳しくは**以下の各トピックスのページ**をご覧ください。

プラチナ豆知識
<https://platinuminvestment.com/about/60-seconds-in-platinum>

プラチナ展望
<https://platinuminvestment.com/investment-research/perspectives>

プラチナ投資のエッセンス
<https://platinuminvestment.com/investment-research>

プラチナ四半期レポート
<https://platinuminvestment.com/supply-and-demand/platinum-quarterly>



@wpi-japan